

麻疹風しん(MR)混合ワクチンの予防接種について

麻疹(はしか)とは

麻疹ウイルスの感染で起こります。感染力が強く空気感染・飛沫感染・接触感染でヒトからヒトへと感染します。麻疹に対する免疫(抗体)を持たない人、または免疫力(抗体価)の低い人に広く感染してしまいます。

主な症状は、発熱・咳・鼻汁・目やに・発疹などです。約10～12日の潜伏期間(ウイルスに感染後、無症状の期間)のあとに症状が出始め、38℃前後の発熱があり、麻疹特有の白く小さな斑点(コプリック斑)も頬の内側の口腔粘膜にあらわれます。数日後に一時熱が下がりますが、24時間以内に再び高熱(39～40℃)となり、鮮紅色の発疹が全身に広がっていきます。主な症状は7～10日で回復していきますが、発疹のあとは、茶褐色の色素沈着となりしばらく残ります。

麻疹にかかるとおおよそ30%に合併症がみられ、主な合併症は、気管支炎、肺炎、中耳炎、脳炎などです。脳炎は約1000人に1人の割合でみられ、麻痺・けいれんなどの中枢神経系の後遺症を残すこともあります。さらに麻疹にかかったあと数年～10数年後に発症する亜急性硬化性全脳炎(SSPE)という死に至る合併症が、麻疹にかかった人のうち約10万人に1人の割合で報告されています。麻疹にかかった人のうち、1000人に1人程度の割合で死亡することがあります。

風しん(三日はしか)とは

風しんウイルスによっておこる感染症です。飛沫感染でヒトからヒトへと感染します。

主な症状は、発疹、発熱、首のうしろのリンパ節の腫れで、そのほかに咳、鼻汁、目が赤くなるなどの症状もみられます。潜伏期間(ウイルスに感染後、無症状の期間)は2～3週間で、発疹の出る2～3日前から発疹が出た後の5日くらいまでは感染力があるといわれています。感染しても子どもでは3日程度で治るとされていますが、大人になってからかかると関節痛がひどくなるなど重症化する傾向がみられます。

風しんの合併症として、一般的に予後は良好といわれていますが、まれに血小板減少性紫斑病(症状としては出血斑、鼻血;約3000人に1人)や脳炎(症状としては発熱持続、けいれん、意識障害;約6000人に1人)といった重い合併症がみられる場合もあり、決して軽視できない疾患です。妊娠初期の女性が風しんにかかると、先天性風しん症候群と呼ばれる病気により、心臓病、白内障、難聴などの障害を持った赤ちゃんが生まれる可能性があります。一緒に生活しているご家族からうつることが多いため、ご家族が風しんにかからないようにワクチンを受けておくことも大切です。

【注意】次の方は接種を受けることができません

- ① 明らかに発熱(通常37.5℃以上)している方
- ② 重い急性疾患にかかっている方
- ③ 本剤の成分によりアナフィラキシー(重いアレルギー反応)を起こしたことがある方
- ④ 免疫機能に異常のある方・免疫抑制をおこす治療を受けている方
- ⑤ その他、医師に予防接種を行うことが不適當であると判断された方

【麻疹風しん(MR)混合ワクチンの効果と副反応】

このワクチンは、生ワクチンなので、ウイルスが体内でふえ、約20%の人に発熱や約10%の人に発疹などの副反応がみられますが、**予防接種を受けた人から周りの人に感染することはありません**。接種後5～14日頃に38℃前後の発熱がみられ3日ほどで下がります。発疹も同じ頃に出現します。接種直後から翌日に過敏症状と考えられる発熱、発疹、掻痒(かゆみ)などがみられることがありますが、これらの症状は通常1～3日でおさまります。また、接種部位の発赤、腫れ、硬結(しこり)、疼痛などがみられることがありますが、いずれも一過性で通常数日中に消失します。まれに重い副反応としてショック、アナフィラキシー、血小板減少性紫斑病(100万人接種あたり1人程度)、急性散在性脳脊髄炎(ADEM、頻度不明)、脳炎・脳症(100万人接種あたり1人以下)、けいれんなどをおこすことがあります。ワクチン接種後に起こる亜急性硬化性全脳炎(SSPE)は極めてまれで、自然の麻疹ウイルスに感染し発症した場合の1/10以下程度と報告されています。

【予防接種後の注意事項】

接種当日は接種部位を清潔に保ち、過度な運動を避け静かに過ごしてください。接種後2週間は健康状態や副反応に留意し、何か気になる症状がある場合は、接種した**病院へ連絡・受診してください**。また定期接種の副反応により健康被害が生じた場合には、「予防接種法」に基づく給付を受けることができます。お住**まい**の市町村の予防接種担当課へご相談ください。